

宮崎県の新型コロナウイルス感染症変異株の対応について

令和 3 年 3 月 2 5 日
健康増進課感染症対策室

1 変異株について

一般的にウイルスは流行していく中で少しずつ変異を起こす。新型コロナウイルスは、現在、従来よりも感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株やワクチンが効きにくい可能性のある変異株が世界各地で報告されている。

2 本県の検査体制

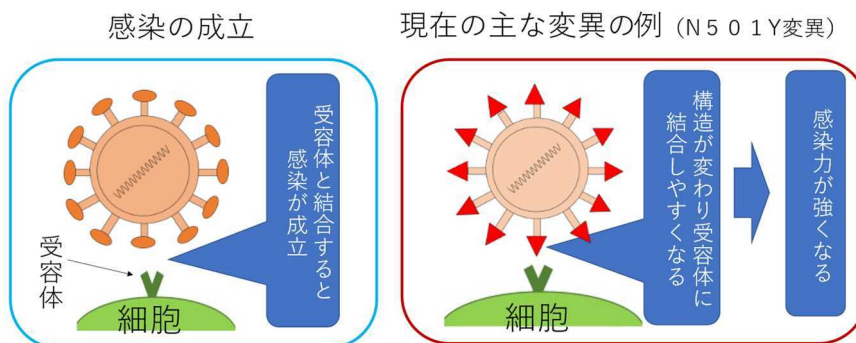
本県は国の検査体制の方針に準じた対応を行っている。具体的には、県衛生環境研究所及び宮崎市保健所において新型コロナウイルス感染症の PCR 検査が陽性だった場合に、一定数の検体を抽出した上で変異株 PCR 検査を県衛生環境研究所にて実施する。陽性の場合には変異株疑い例とし、国立感染症研究所へ検体送付を行い、ゲノム解析の結果を踏まえて変異株と確定される。

3 変異株 PCR 検査陽性後の患者等の対応

変異株 PCR 検査陽性後は、国の方針に基づき、原則入院となり、国の示す新型コロナウイルス感染症（変異株）の患者等の退院基準¹⁾を満たすまでは隔離が継続される。なお、退院基準を満たす前に変異株でないことが判明した場合には、現行の退院基準²⁾により対応することとなる。

- 1) 「新型コロナウイルス変異株流行国・地域に滞在歴のある入国者の方々の健康フォローアップ及び SARS-COV-2 陽性と診断された方の情報及び検体送付の徹底について」（令和 3 年 3 月 1 6 日最終改訂）
- 2) 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における新型コロナウイルス感染症患者の退院及び就業制限の取扱いについて（一部改正）」（令和 3 年 2 月 2 5 日最終改正）

【参考】ウイルス感染の成立と変異株との関係



Q 新型コロナウイルスの変異について教えてください。

A 現在、従来よりも**感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株**（※1）や、**ワクチンが効きにくい可能性のある変異株**が世界各地で報告されています。

日本では、変異株のクラスターが複数報告され、海外とのつながりがない事例も継続して確認されていますが、**地域で広く流行している状況ではありません**。

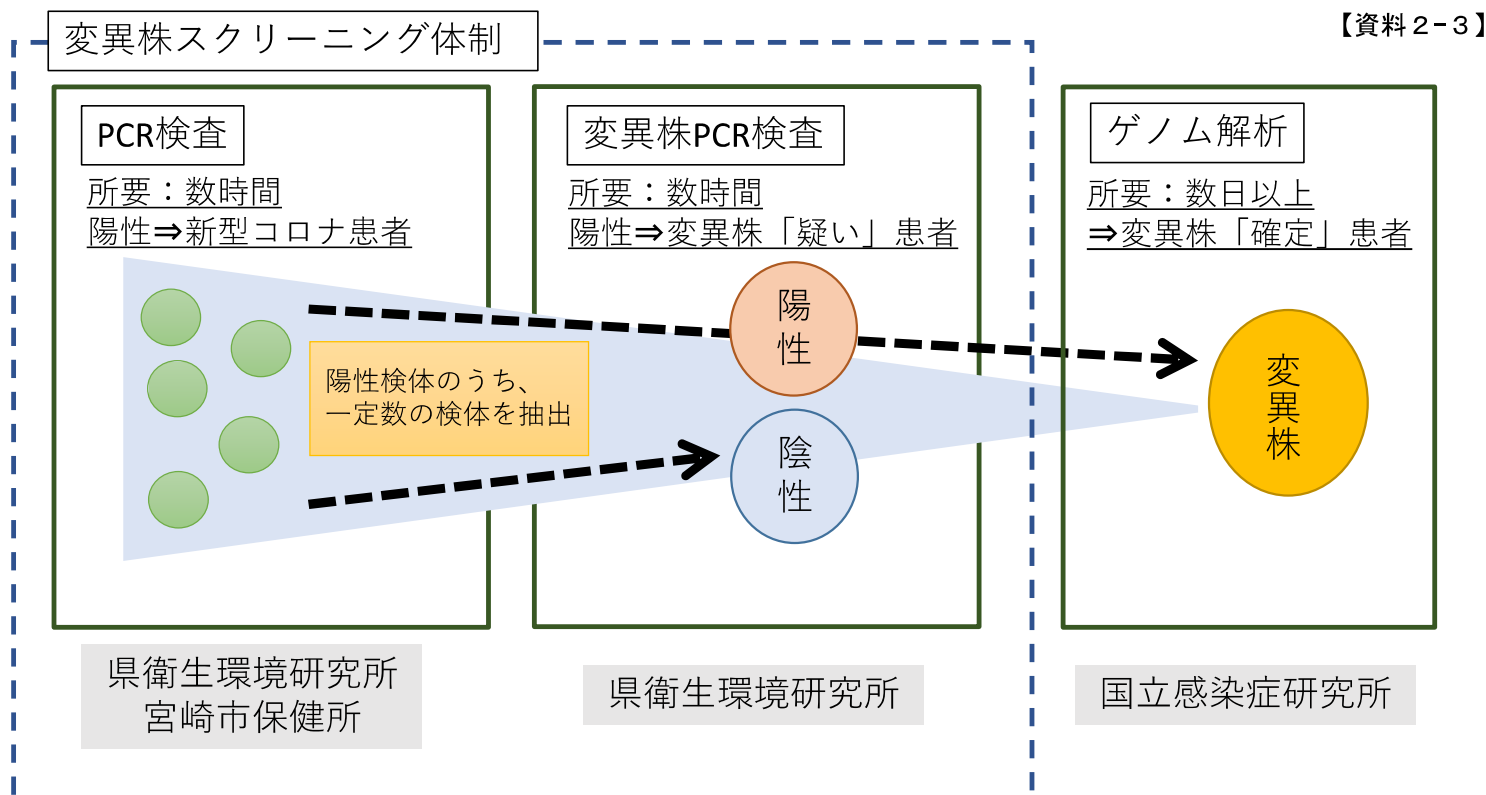
厚生労働省では、新型コロナウイルスのゲノムを解析し、変異の状況を監視しています。世界保健機関（WHO）や専門家とも情報交換を行い、こうした変異の分析・評価を行うとともに、国内の監視体制を強化しています。また、変異株事例が確認された場合には、検査や積極的疫学調査を強化して、封じ込めを図ってまいります。

個人の基本的な感染予防策は、変異株であっても、**3密（特にリスクの高い5つの場面）の回避、マスクの着用、手洗いなどが、これまでと同様に有効**です。国民の皆様には、改めて感染予防対策へのご協力をお願いいたします。

※1 英国の専門家会議の見解によると、従来よりも感染しやすい、重症化しやすい可能性のある変異株は、子どもが大人よりも感染しやすいということはなく、どの年齢であっても感染しやすい可能性があるとして報告されています。

（参考）一般的にウイルスは流行していく中で少しずつ変異を起こしていきます。この変異したウイルスが変異株です。変異が起こると性質の変化が起こり、感染しやすくなる場合等があります。新型コロナウイルスについても、約2週間で1カ所程度の速度で変異していると考えられています。

出典：新型コロナウイルス感染症の“いま”についての11の知識（2021年3月9日更新）



【検査対象】

- ・ 県保健所や宮崎市保健所から搬入された検体
例) 変異株陽性者との接触者、流行国との滞在歴あり、クラスター形成事例 など